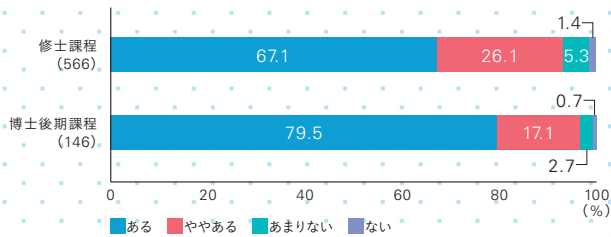


第5章 大学院生について

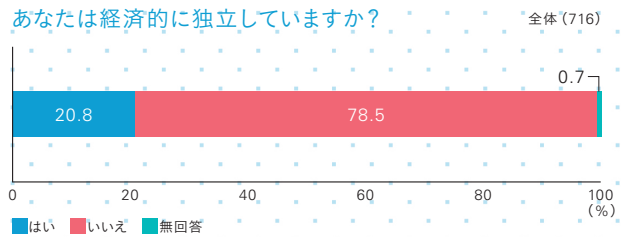
本章では大学院生の授業への興味や研究指導方法への満足度、将来の進路に向けた準備や不安、心身の健康状態、家計状況に関する調査結果をまとめました。*専門職大学院の調査結果を含めずに集計しています。

授業への興味について



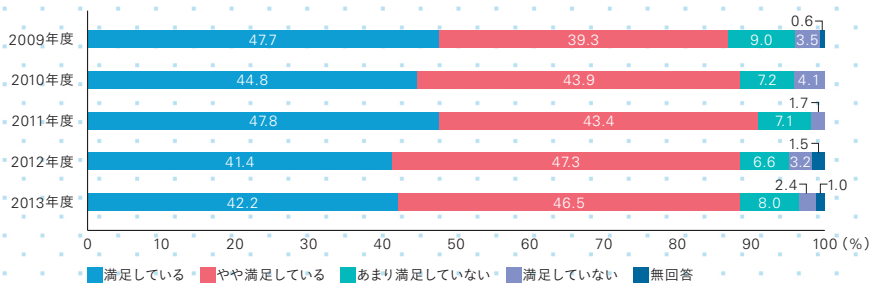
「ある」の回答の割合は、学部4年生では56.0%でしたが、大学院に進むと、修士課程では67.1%、博士後期課程では79.5%と高い割合になっています。専門の研究が進むにつれて授業への興味がさらに深まっているのは大学院生ならではの特徴と言えます。

家計状況について



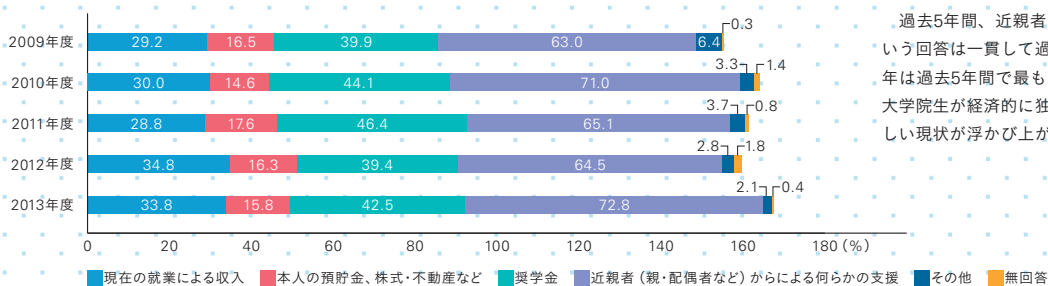
全体的に見て、78.5%の大学院生が「経済的に独立していない」と回答しており、この割合は昨年よりも1割弱増加しています。

研究指導方法への満足度について



昨年に比べて「やや満足している」が若干減り、「満足している」が増えています。過去5年間、「あまり満足していない」の割合に大きな変化はありませんが、「やや満足している」と「満足している」の割合は微妙に変化しており、ここ2年間は「やや満足している」の方が「満足している」よりも多いのが特徴です。

学費・生活費の収入源について



過去5年間、近親者による支援に頼っているという回答は一貫して過半数を超えています。今年は過去5年間で最も高くなりました (72.8%)。大学院生が経済的に独立した環境で学ぶことが難しい現状が浮かび上がっています。

大学院生の授業への関心は学部学生よりも一段と高く、かつ課程が進むにつれて高くなっているのは、専門の研究が進むにつれて学問への興味が深まっていく大学院生ならではの特徴が現れています。研究指導方法に対しては、昨年度に比べて「やや満足している」が若干減り、「満足している」が少し増えていますが、ここ2年間は「やや満足している」

の方が多くなっています。

家計状況を見ると、学費・生活費の収入源を「近親者による支援に頼っている」という回答が過半数を超えており、今年は過去5年間でこの回答が最も高くなりました。「経済的に独立していない」の割合が昨年度よりも1割弱増加していることを考えると、大学院生が置かれている経済状況の厳しさが伺えます。